

登園基準について

厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」に沿った登園基準についてお知らせします。下記の基準を守って登園してください。

(1) 発熱の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
発熱期間と同日の回復期間が必要 <ul style="list-style-type: none">朝から 37.5℃を超えた熱とともに元気がなく機嫌が悪い。食欲がなく朝食、水分が摂れていない。24 時間以内に解熱剤を使用している。<u>24 時間以内に 38℃以上の熱が出ていた。</u>	前日 38℃を超える熱が出ていない <ul style="list-style-type: none">熱が 37.5℃以下で元気があり、機嫌がよく顔色がよい。食事や水分が摂れている。発熱を伴う発しんが出ていない。排尿の回数が減っていない。咳や鼻水を認めるが、増悪していない。24 時間以内に解熱剤を使っていない。24 時間以内に 38℃以上の熱は出ていない。	38℃以上の発熱がある (園では 37.5 以上で連絡しません) <ul style="list-style-type: none">元気がなく機嫌が悪い。咳で眠れず目覚める。排尿回数がいつもより減っている。食欲なく水分がとれない。 ※熱性けいれんの既往児は医師の指示に従う。

(2) 下痢の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<ul style="list-style-type: none">24 時間以内に 2 回以上の水様便がある。食事や水分を摂ると下痢がある。(1 日に 4 回以上の下痢)下痢に伴い体温が平熱より高め。朝、排尿がない。機嫌が悪く元気がない。顔色が悪くぐったりしている。	<ul style="list-style-type: none">感染のおそれがないと診断されたとき。24 時間以内に 2 回以上の水様便がない。食事や水分を摂っても下痢がない。発熱が伴わない。排尿がある。	<ul style="list-style-type: none">食事や水分を摂ると刺激で下痢をする。腹痛を伴う下痢がある。水様便が 2 回以上みられる。

(3) 嘔吐の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<ul style="list-style-type: none">24 時間以内に 2 回以上の嘔吐がある。嘔吐に伴い、いつもより体温が高めである。食欲がなく水分もほしがらない。機嫌が悪く元気がない。顔色が悪くぐったりしている。	<ul style="list-style-type: none">感染のおそれがないと診断されたとき。24 時間以内に 2 回以上の嘔吐がない。発熱がみられない。水分摂取ができ食欲がある。機嫌がよく元気である。顔色が良い。	<ul style="list-style-type: none">咳を伴わない嘔吐がある。元気がなく機嫌、顔色が悪い。2 回以上の嘔吐があり水を飲んでも吐く。吐き気がとまらない。お腹を痛がる。下痢を伴う。

< 治癒通知書 > 医師が記入した意見書が必要な感染症

病名	感染しやすい期間	登園の目安
インフルエンザ	症状がある期間（発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い）	発症後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで
百日咳	抗菌薬を使用しない場合、咳の出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること（抗菌薬を決められた期間服用する。7日間服用後は医師の指示に従う。）
はしか（麻疹）	発しん出現の前7日間から後7日間くらい	解熱後3日を経過してから
おたふくかぜ （流行性耳下腺炎）	発症3日前から耳下腺腫脹後（耳の後ろから顎にかけての腫れ）	耳下腺の腫れが消失してから
三日はしか（風疹）	発しん出現の前7日間から後7日間くらい	発しん（ぶつぶつ）が消失してから
水ぼうそう（水痘）	発しん出現1～2日前から痂皮（かさぶた）形成まで	すべての発しんがかさぶたになってから
プール熱（咽頭結膜炎） 【原因ウイルス：アデノウイルス】	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え、2日してから
流行性角結膜炎 【原因ウイルス：アデノウイルス】	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため、結膜炎の症状が消失してから
結核		感染のおそれがなくなってから
腸管出血性大腸菌感染症 （O157、O26、O111）		症状が始まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌がないと確認されたもの



<登園届> 医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が必要な感染症

病名	主な症状	登園基準
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳がおさまっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱（みずぶくれ）・潰瘍（ただれ）が発症した数日間	発熱や口腔内の影響がなく、普段の食事がとれること
リンゴ病（伝染性紅斑）	発しん（ぶつぶつ）出現前の1週間	全身状態がよいこと
ウイルス性胃腸炎 【原因ウイルス：ノロ、ロタ、アデノウイルスなど】	症状のある間と症状消失後1週間（数週間ウイルスが便の中に含まれているので注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状がおさまり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	発熱等症状が出てから数日間（便の中に1カ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要）	発熱や口腔内の水疱（水ぶくれ）・潰瘍（ただれ）の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染	呼吸器症状（ヒューヒューという呼吸音、咳、痰）	呼吸器症状が消失し、全身状態がよいこと
帯状疱疹	水疱（水ぶくれ）を形成している間	すべての発しんが痂皮化（かさぶた）してから
とびひ （伝染性膿痂疹皮膚化膿症）	水疱（水ぶくれ）、びらん（ただれ）から膿が出ている間	・水疱（みずぶくれ）・びらん（ただれ）面をガーゼ等で保護できること ・水疱（水ぶくれ）・びらん（ただれ）面が乾燥し、膿などが出ていること
突発性発しん		解熱し、機嫌がよく、体調がよいこと

